らき☆すたSS ～普通が普通で普通じゃない～

ゆーみん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
らき☆すたＳＳ　～普通が普通で普通じゃない～

【Ｎコード】
Ｎ３７６６ＢＡ

【作者名】
ゆーみん

【あらすじ】
これは陵桜学園高等部に転入してきた平沢剣輔（ひらさわけんすけ）がいつもの四人＋αと出会い、友情、愛情、根性その他諸々を育んでいく物語です。

前日談（前書き）

初めに
オリジナル主人公、オリジナルキャラが許せない人はオススメしません。（おそらくたくさんでてくるので）
更新は一、二日でやっていきたいです。
パロディー多数登場します。
原作を知っている方がキャラクターの印象がわかりやすいと思います。

以上が平気な方は下のまえがきすっ飛ばして、本編に行っても大丈夫ですよ。

初めまして、ゆーみんです。
本編はオリ主がだいたいの原作登場キャラと交じり合っていく物語です。
自分ではかなり長くなる予定でいます。
おがましいのですが、もしこの作品が面白いなっと思った方はこれからもよろしくお願いします。
毎度ですが、駄文乱文なんでもありな文章力なので、そこはスルーするか、そこはかとなく指摘してくれると幸いです。
末永く、温かく見守ってやってください。

前日談

前日談

この話は俺――平沢（ひらさわ）　剣輔（けんすけ）が長らく世話になった実家をはなれて父親方の祖夫の家に越して来たところから始まる……。

高校二年生の春

親の都合で埼玉県幸手町にある祖父の家へ引っ越して来た平沢剣輔は、早速明日から入学が決まった陵桜学園高等部の真新しい制服（と言っても学ランだが）を袋から出し、一年間お世話になった高校の制服を丁寧にクローゼットにしまっていた。あらかた引っ越しの荷物の整理は出来ており、後は明日の準備を残すだけどなっている。

「明日から新しい学校かぁ……。」

前の高校では入学してそうそうに趣味の合う友達ができ、それなり充実したものだったためか新しい学校で友達ができるか正直のところ不安だった。

それは必ずしも彼に限ったことではないのだが。

実際、陵桜学園の高等部は一学年が１３ものクラスで構成されているマンモス校なので、もとから学園に通う生徒でも、二年目も同じクラスになる人なんてほんの数人だろう。

それでも剣輔は不安を拭いきれなかった。

もちろんそれは彼の趣味のせいでもあるが。

「とりあえずこんなところかな。」

ひとしきり準備が整ったところで剣輔は立ち上がり仏壇のある和室へと足を運んだ。

「じいちゃん、ばあちゃん、明日から新しい学校だけど俺頑張ってくるから。」

懐かしい祖父母の顔に合掌をし自室へ戻っていった。

まだ寝るには早い時間だったので、本を読んで過ごし、今宵も夜が更ける。

午前1時誰もいないはずの平沢家の廊下に足音が響いた。
そして、リビングにあたる場所で、電灯以外の何かを点ける音が聞こえた。

前日談（後書き）

ここまで読んでいただき、ありがとうございました。
もちろん、早く続きを更新したい所存であります。
ロングランになると思いますが、頑張ってゴールを目指していきたいです！。

四月十日　前編

平沢剣輔の朝は早い。いつものように六時半には起き、朝飯の仕度をする。学園まで電車で少なくとも四十分はかかるからだ。前の学校では家が遠く、電車もあまり通っていなかったので必然的に朝早く起きることになっていた。慣れていると言えば慣れているのだろう。

「それにしても眠いなぁ。やっぱ録画すればよかったかなー。」

上ではぼやきを口にしているが、フライパンを持つ手は止まらない。剣輔の両親は朝早く、夜遅い生活だったので朝昼晩は自分で調達せねばならず、家事はそれなりにやっていた。やらざるをえなかっただけなのだが、ここでも彼の一年間で身につけたスキルを存分に発揮し、家事を進めていった。

七時二十分、いそいそと家の鍵を閉め、少し早歩きで家を後にする。剣輔の家は最寄りの駅から程よく近いところにあるので急ぐ必要はないのである。しかし転校初日で気持ちが浮くのは当然なのだ。定期を使い電車に乗り込む。少し早い時間だったので学園の生徒はまばらだった。

そのまま電車に揺られること四十分。

その間剣輔は自己紹介のセリフを考えていた。

「はじめまして、愛知県から来ました。平沢剣輔です。幸手市の祖父の実家から電車でここまで来ました。この高校の第一印象はなんというか、大きいですよね。」

（いかんいかん、堅苦し過ぎるな。）

「はじめまして、平沢剣輔って言いまーす。愛知県から来ましたー。まだ土地勘とかなくてー不安いっぱいですけど頑張ってなれていきたいでーす。」

（初対面なのに馴れ馴れし過ぎる！！！）

そんなことを考えているうちに目的の駅に着いてしまった。

学校までの道のりはすでに調査済みなので迷うことなく舗装された道を歩いた。
ほかの生徒も剣輔と同じ気持ちなのかどこか急ぎ足だ。

「あの…すみませんですが。」
突然後ろから声をかけられた。しかもその人が今から赴こうとする学校の制服を着ていた訳で、二倍びっくりした。
「はい！！なんでしょうか！！！」
思わず大声になってしまい相手の方は少し肩を揺らしていた。
「あの…生徒手帳落とされましたよ…？」
剣輔は声の主をようやく視界に収めることができた。
（か、かわいい…）
不覚にも少しときめいてしまった。
その女子生徒は大きな丸めがねをかけていて、見るからに頭の良さそうな雰囲気が漂っている。
「あ、あの…。」
「あっ、す、すいません！」
見るからに真っ赤になった顔でその女子生徒が言葉を紡いだ。
なんだかんだでその子の顔をたっぷり五秒は見つめてしまった訳で。
「その…生徒手帳を……。」
「あっあ、ありがとうございました。」
剣輔はようやくその少女が何の目的で話し掛けてきたのか悟った。
「そ、それでは失礼します。」
そう言い残すと、その女子生徒は駆け足に去っていった。
（かわいい人だったなぁ）
登校初日からご機嫌な気分でさっきまでの不安が嘘のようだ。
「あっこれ。」
件の少女が走っていった方向の地面に何か落ちていた。
「これって…。」
さっきの少女の生徒手帳であった。

名前のところには
高良　みゆき
とあり、クラスは２－４　と記入されていた。
（さっきの子のだ。また後で届けに行こう。）
そう心に決め、目的地陵桜学園を目指すために一歩足を踏み出した。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3766ba/

らき☆すたSS ～普通が普通で普通じゃない～

2012年1月9日21時58分発行